

平成30年7月2日

北都新聞掲載

# 武四郎の軌跡伝える

美深アートヴィレッジ恩根内

## 7月からミュージアム開設

【美深】アートヴィレッジ恩根内で1日、松浦武四郎の旅の軌跡を伝える新たな展示「松浦武四郎・天塩川ミュージアム」が始まった。

この展示は、施設を管理している工藤貢さんが北海道命名150年の節目に合わせて「より多くの人に松浦武四郎について深く知ってもらいたい」という思いから設置され、工藤さんが数十年間にわたって学んできた松浦武四郎についての知識と、美深町内だけでなく名寄市の北国博物館、三重県松阪市の松浦武四郎記念館など多くの団体の協力を受けて完成した。

展示では、松浦武四郎が天塩川流域を旅した際の軌跡と記録が壁一面に大きく記されているほか、松浦武四郎が記録した「天塩日誌」の現代語訳版をはじめとした数多くの書籍や資料も展示されている。資料は展示場内であれば自由に閲覧できる。

このほか、松浦武四郎の旅を支えたアイヌ民族の成り立ちと歴史を記した資料の展示や、現在の天塩川を舞台に展開されているカーン大会「ダウン・ザ・テッシーオーペツ」や道北文化創造プロジェクト「BASIS（ベイス）」を紹介している。

展示はアートヴィレッジの開館時はだれでも無料で自由に見学できる。展示は常設して今後も継続し、内容の充実にも努めていくという。（安積祥紀）



松浦武四郎の旅路を伝える貴重な資料が展示されている